

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400088		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 美しの里		
所在地	千葉県南房総市和田町松田715-1		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp">http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307
訪問調査日	平成22年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事の栄養バランスや清潔、整理整頓により健康状態を保ち、ADLを低下させない。役割を持つことでの、生きがい、達成感、を持つ暮らしぶり。 個性を尊重したその人らしさを大切に支援。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地の中の2階建て2ユニットのホームです。野菜畑・庭園・ホームの駐車場に囲まれ閑静な環境にあります。職員の対応も「安心・安全」を合言葉に利用者本位を徹底しており、居心地の良いホームと思われず。  
 遠方に住む家族もあり、来訪の頻度は必ずしも多くありませんが、家族アンケートへの回答率は9割弱と関心が高く、回答内容から満足度も高まっており信頼感の厚いことが窺われます。  
 運営母体が地域の中核病院を経営する法人のため、医療の連携体制が十分で安心感が強いと思われず。また、近隣にグループ内の同様施設が他に3施設ありお互いに情報交換したり、職員が見学し合ったりして質の向上に努めています。過去の外部評価結果も真剣に受け入れ改善に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して実践につなげるよう努力している。管理者は地域の方とのつながりを持つよう心掛けているが、職員は、稀に訪ねてきてくださる方のみとの交流となっている。	前回の外部評価を受けて職員で話し合い、地域密着型サービスに重点を置いた理念を作り上げ、朝の申し送りのミーティング時に唱和する等職員間での共有を図り実践に繋げるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらったり、区の総会やごみゼロ運動に参加しており、少しずつ交流を広げている。	回覧板を回して貰うことにより地域の情報が得られ、区の総会やごみゼロ運動・秋祭りに参加し、逆にグループ内の他ホームと共催する納涼祭に地域の方や子ども達も参加したり、ボランティアが庭内で野菜栽培してくれたりとの交流が進んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区の総会の時に「認知症とグループホームについて」の話をする機会を作ってもらい話をする事が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や民生委員から地域の情報をもらい、活動や講習会に参加できた。サービスの向上に直接つながるような意見まではいただいている。	区長や民生委員、地域包括支援センター職員等の外部メンバーを加えて常時年3回を目標に開催し、管理者が区の総会で認知症とグループホームについて話すきっかけとなったり、日赤の講習会についての情報を得たりしています。	会議は市又は地域包括支援センター担当者を交えて2カ月に1回以上開催することが望ましいとされています。外部メンバーのご協力を得て取りあえず年4回開催を目指してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者はいないと。地域包括と徐々に協力関係を気付くよう心掛けている。	各種申請等役所関係の折衝等は、地域中核病院の一つである法人本部で一括して行っているため接触の機会がありません。地域包括支援センターとの連絡は行われており、ホームとしては近隣地域との交流に力を注ぐことが第一と思われまます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	おおむね理解し取り組んでいるも、時折言葉や態度の拘束が見受けられる。	職員への身体拘束排除や虐待防止の内部研修を実施しており、理解も深まっているものと思われまます。玄関は日中は鍵をかけず出入りは自由な形にしており、職員が常に利用者の動静に注意を怠らないようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修」に参加し、施設内研修において学ぶ機会を持ち、防止に努めている。更なる学びの継続をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会を持ったが活用する機会はなかった。さらに学びを深くし必要時に備えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に伺うよう心掛けている。外部評価のアンケートにより意見、要望を聞くことが出来、運営に反映させる事が出来た。今後独自のアンケートもしていきたいと思う。	運営推進会議や家族の訪問時に主として管理者が聞くように努めていますが、苦情等はあまりないということです。家族訪問時に全職員が協力して会話の中で意向をくみ取る努力をしたり、独自のアンケートを実施してみることも効果的と思われます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや業務の合間に聞くよう心掛けている。すぐには反映できない部分もあるが、出来得る限りの努力はしている。	年一回職員の個人面談を行い率直な意見を聞くようにする他、日常の業務の中でも意見を引き出すように仕向けています。職員も女性管理者になってなんでも言いやすくなったと話しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来得る限りの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	先週の情報を流すと共に、積極的に研修を受けるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に1度の管理者の集いに参加し、職員は、市域のグループホームで交流研修を行う機会を持ち、サービスの質の向上を目指し、前向きに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズとグループホームのサービスや環境があっているか見極め、適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一部の職員と利用者が築いているといえるが、全ての関係がそうとは言えない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にした支援はしているが、共に支えている関係とまではいっていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンだけでなく兄弟姉妹との面会や外出がスムーズに行えるよう、また、散歩やドライブの折にはなじみの場所にいけるよう支援している。	日々の会話の中から、その人の思いや気がかりな事に気づくこともあり、自宅の畑や庭にみかんがなっているところを見に行くなど散歩がてら、ドライブにも連れ出しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の席など関係が上手くいくよう工夫したり、会話がスムーズに行くよう支援している。足の不自由な方には、元気な方が食器を下げたり洗濯物を居室に届けたりする関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや希望を聞くことに努め出来得る限り希望がかなえられるよう取り組んでいる。	利用者と過ごす時間を通して、言葉の表現からだけでなく、表情から読み取るなどして、どんなに些細なことでも本人が決める場面づくりを心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴をお聞きすると共に本人からも話してもらえるようにコミュニケーションをこまめにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に現状の把握に努め、口頭の申し送りや申し送り帳を活用しての職員間の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合いの機会には充分ではないが職員間や関係者と話し合いを持ち介護計画を作成している。	転倒時や入院する等、心身の状態変化や状況に応じて家族や関係者と話し合いを持ち、介護計画を見直しています。利用者一人ひとりに担当を決め、気づきや工夫をケア記録に記載し、職員間で情報を共有しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し実践に活かしている。介護計画の見直しには十分に活かしていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合わせた取り組みをしようと心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味活動やレクリエーション、イベントの企画や参加をする事で豊かな暮らしを楽しむことが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一ヶ月に一度の定期受診を行うほか、必要に応じて都度受診できるよう支援している。	協力機関への定期受診・他病院への受診にも対応しています。基本は家族に付き添っていただきますが、家族が県外・他市に住んでいる等の場合自費対応での支援もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約医療機関の看護師とは蜜に連絡を取り、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族と話し合いを行い、契約医療機関や担当の看護師と蜜に連絡を取り、また職員の研修を重ね、適切な看取り介護が出来るよう準備している。	早い段階から家族と話し合いを行い、契約医療機関や担当の看護師と連携を図ってます。また職員の研修を重ね、適切な看取り介護が出来るよう準備しています。肺炎や高血圧等で状態の変化があるごとに、母体の医療機関と都度相談できる為、対応が速く、本人・家族は安心されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員が不定期に訓練を受けているも、全ての職員が実践力を身につけているとは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋の訓練は何度かやったものの、全職員が行ったわけではないので、今後も継続していきたい。	昼間の防災自主訓練を行い、消防署を呼んでの訓練を3月に予定し署の了解もとっています。消火器、居室等への煙・熱感知器も備えています。備蓄については現在リストアップをほぼ終えたところです。	備蓄品を早く揃えと共に、次のステップとして、地域の方の協力もえて夜間を想定した避難訓練の実施を検討されることが望まれます、

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	訪問調査時トイレへの声かけをあからさまにすることなく、さりげなく誘導している場面がありました。一人ひとりの人格を損ねない言葉かけや対応を心がけるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で食べたいものや行きたい所を探ったり、入浴、散歩、外出、趣味活動他、自己決定できるよう声かけしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで、思い思いに過ごされている。「天気がいいからどこか行きたいな。」の希望にはこたえられないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	食事のたびに着替えをされる方がいたり、今日はこの色の服とこだわりを大切にされている方がいたり、思い思いに暮らされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお茶入れ、配膳も協力的で、皆さん食事を楽しみにされ、「今日は何の日？御馳走だね。」等々話され召し上がっている。片付けはそれぞれの力に応じて、思い思いにされている。	当番を決める等はせず、その日の気分で茶碗洗い、あと片付けを職員と一緒にこなしています。食事介助があり、職員が利用者と同じテーブルに座って、同じ物を食べながら、会話を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランスは十分に摂取できている。水分はなかなか摂っていただけない方もいて、嗜好を考慮した様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後とはいかないが、それぞれの状態や力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットが1枚でも減るように声かけや誘導を行っている。	アセスメント表を利用して、一人一人の排泄パターンに応じて全員トイレ誘導し、トイレでの排泄が可能になることを目指した支援をしています。(殆んどリハビリパンツを使用しています)	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には繊維の多いものやヨーグルトを食べていただいたり、水分を多めにした運動への働きかけ等、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の枠の中で、失禁等の排泄の状況を考慮した上で、希望やタイミングに合わせて、声かけ、誘導をしている。	午後1時から5時まで毎日自由に入浴可能です。ただ要介助者が殆んどなので、週3回曜日を決めて一日4人～5人にゆっくり入浴を楽しんで貰うようにしています。拒む利用者には日時をずらし、タイミングを見ながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は思い思いに休息し、夜は安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診日に薬の作用副作用について確認し、症状の変化を確認し、変化が著しい時は看護師に報告相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事、洗濯、掃除、落ち葉掃き、草取りなどの役割と、趣味活動、外出、イベント等気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるような支援は出来ていない。家族や地域の人々との協力も出来ていない。職員の都合や家族の都合のつくときに外出している。	「今日は天気だなあどこか行きたいなあ」と当日言われることもありますが、人員の関係上希望に添えないのが現状のようです。外出の機会が少ないため近隣の方との交流の機会も失われがちではないかと思われま。	日光を浴びるだけでも気分転換やストレス発散になるので、短時間でも、庭等身近な場所で過ごす機会を日々の生活で生かしていけるような支援が求められます。



自己	外部	項目	自己評価《穂》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	力に応じて受診時の支払い等促し見守りにより行っている。買い物に同行することもあるが、何を買ったらよいのか分からず帰ってしまうことが多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、四季折々の写真や折り紙、ちぎり絵作品をはり季節が感じられるような配慮をしている。共用空間は特に清潔を保つよう心掛けている。	リビングはゆったりとしており、明るく日当たりもよく、換気も配慮されています。壁には利用者の写真や作品を飾り、雛人形の壁掛けや切り花を活けて季節感も演出しています。トイレ、浴室も比較的ゆったりとし、清潔感もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のあちらこちらに椅子を置き、そこに座り、気の合った仲間と語らいの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい椅子や机や使い慣れたたんすを持ち込み居心地よく過ごせるように利用者本位の部屋作りをしている。	全般的に簡素な居室が多いようですが、各居室に棚のあるコーナーがあり、そこに位牌や写真、一寸した作品等思い思いのものが置かれています。また、机・椅子・タンス等馴染みのものが持ち込まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場、各居室をわかりやすく工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400088		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 美しの里 《和》		
所在地	千葉県南房総市和田町松田715-1		
自己評価作成日	平成 21年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp">http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>食事の栄養バランスや清潔、整理整頓により健康状態を保ち、ADLを低下させない。役割を持つことでの、生きがい、達成感、を持つ暮らしぶり。 個性を尊重したその人らしさを大切に支援。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、地域の皆さんとのふれあいを目指した活動はまだまだ足りない。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回してもらったり、区の総会やごみゼロ運動に参加し、季節の行事に参加できるようにしており、少しずつ交流の場を広げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区の総会の時に「認知症とグループホームについて」の話をする機会を作ってもらい話をする事が出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や民生委員から地域の情報をもらい、活動や講習会に参加できた。サービスの向上に直接つながるような意見まではいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者はいないとの事。地域包括と徐々に協力関係を気付くよう心掛けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の様子で危険性を見て一時的に一部のカギをかけることはあるが、身体拘束廃止研修にも順に参加し、防止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	十分に注意し、職員間でも意識し入浴の時などボディチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会を持ったが活用する機会はなかった。さらに学びを深くし必要時に備えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	子供さんのいない方やご兄弟の多い方など、各家庭の事情・考え方の違いもある。入所後の協力態勢も含め、面談させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と職員もなじみの関係を築けるようになり、施設外でも気軽に声をかけてもらえるようにしている。各家庭の事情もあり、キーパーソンの要望により全職員へ伝えない事もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務の中でも気になった事は、その都度コミュニケーションをとり、反映できるように心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備は、職員にとっては不十分な面もあると思われるが、人の人生に関する仕事であり、人の評価については難しい面もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のアドバイスも含め、各研修の機会は増えている。同業者と同席することで、自身の振り返りも出来るようになった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記と重なるが、交流会を通して、他施設の様子を知る事で自身の振り返りにもつなげてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。ただ、初期の段階で自分の思いを正直にお話できる方は少ない。会話の中から、くみ取る努力はしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族についても同様に、正直な現状を把握する事は難しい。実際には、ケアマネやワーカーさんからの情報の共有によって知ることも多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いろんな場面を設定しての話しをしているが、現実には家族の本音として、部屋が空いていけば入れて欲しいというのが、先になっていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的に許す方については、日常生活を共に出来ていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家庭の事情にもよるが、やはり家族と過ごす時の利用者の表情は違うため、外出・外泊の支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	もちろん皆さんの要望を叶えられる努力はしており関係を途切れさせることはしていないが、本人の混乱をまねくこともあり、控えてもっていることもある。(宗教・道場への出入り)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階と2階の差はあるものの、受診や外出の際に自然と手を差し出され、気遣いの場面を見ることができる。危険のない限りで行ってもらっている。逆に気兼ねすることないように、席の配置を変える事もある。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談形式では、本人も構えてしまうところがあり、日常的な会話から思いをくみ取れるように心掛けている。その上で、職員が家族との橋渡しになればと思いそれに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・職員ともに情報の共有をはかり、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話のやりとりや、食事の様子、入浴・トイレ介助など全体を通して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて、家族と面談を行い、面談がかなわない場合はその都度連絡をいれている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	声かけの仕方や会話のやりとりを記録し、こんな会話からこういう反応が返ってきたと職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	よく、相談し叶えられるものは出来るだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を感じられる野菜や植物を差し入れて頂き、おやつ作りをしたりと利用者にあわせた暮らしの中の楽しみを提供できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関への定期受診・他病院への受診へも同行し、家族では把握できていない部分の支援を続けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診が必要かどうか迷う場面では、必ず看護師に相談し指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本院が軸となって親睦会を開いている。入院先へも定期的に顔を出し情報交換している。また、退院後も相談に乗ってもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面談・書面にて行っているが、体調の変化に応じてその都度相談し、主治医との面談もお願いしている。終末期に関しては、家族の思い・悔いが残らないようにも留意し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	順に研修を受けているが、全職員の実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	屋の訓練は何度かやったものの、全職員が行ったわけではないので、今後も継続していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者にあつた対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、聞く姿勢をもって対応したいと心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昨日できても今日できないこともあるが、それぞれのペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に衣類を選んだり、鏡の前に並んで声かけあったりと和やかに出来ていると思う。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みは把握している。野菜の皮むきをして下さったり、味付けを見てくださったりと出来る範囲で行っている。片付けもそれぞれに利用者同士で助けあっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみの必要な方、排便後の水分補給、夜間の水分補給とそれぞれにあわせて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日中はそれぞれだが、就寝前に口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに応じて行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介助の必要な方が多く、事故の危険もあるため、曜日や時間帯を決めて行っている。それによってゆっくりと入浴を楽しんでもらえていると思っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にあわせて居室で昼寝したり、リクライニングソファを利用し休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前の確認をし、十分に注意している。必要な方は、日付もすべてに記入している。定期受診の際に本人に代わって主治医へも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分に出来る事が嬉しいのと言って下さる方もおり、その人それぞれカラオケ・習字・リハビリ等の喜びを見つげられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるような支援は出来ていない。家族や地域の人々との協力も出来ていない。職員の都合や家族の都合のつくときに外出している。		

自己	外部	項目	自己評価《和》	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いの際に、一緒に確認することはあるが、お金の管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ってはいるがシンプルである。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。廊下のあいたスペースに椅子を配置して日光浴されたり、外を眺めたりと思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	活かした工夫は出来ていない。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、わかる事は把握している。出来る範囲での自立を目指しているが、工夫はしていない。		